武　一　中

令和６年 10 月４日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R6－11 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

「ボランティア活動」の感想

校　長　　中嶋　建一郎

9/30 朝礼の話の感想を 29 人が書いてくれました。テスト前日やテストの前後など勉強に集中しなければならない時にありがとうございました。一部を紹介します。

○ボランティアに興味が出たので、まずは地域のボランティアをやってみたいと思いました。

●ボランティアに４つの原則があることを知りました。確かに、ボランティアを強制するのは本来の趣旨とは違うと思った。

○ボランティア活動をしてみたいと思った。人と人とのつながりを大切にしたいと思えた。

●ボランティアでいろいろな人を助けている人はすごいなと改めて思いました。

○自分ができることはしようと思いました。

●ボランティアは人を喜ばす力がある。

○ボランティア活動といえば私は最初にゴミ拾いを想像してしまい、個人的にゴミを拾うことがあまり好きではないのでボランティア活動と言われると嫌だなーと思っていました。しかし、この話を聞いて自分の趣味に関係することや好きなことのボランティア活動や地域に貢献することができることをできたらいいなと思いました。

●ボランティア活動は、人のために行うものです。わたしも国際的な仕事やことに興味があるので、ボランティア活動のことを視野に入れてみようと思います。

○今まで、自分ではしっかりと考えてはいなかったけれど、何気なくみんな小さなボランティアをしていたことに気付いた。校長先生の「他人から強制されるものではない、自発的に行われるもの」だということをきいて、たしかにと思った。それでも、見返りを求めずにみんなが少しずつボランティアに取り組めばより良い未来へとつなげるのではないかと思った。私も自分のできるボランティアをしていきたい。

●ボランティア活動の話を聞いて、最近ニュースでオリンピックで活躍していた、フェンシングのメダリストの選手の人たちが地震の復興ボランティア活動をしているのを見て、色々な人たちがボランティア活動をすることで、被災地の人も助かるし、嬉しい気持ちになるし、ボランティア活動をしている人も良い気持ちになることから、ボランティア活動はとても大切だなと思いました。

○ボランティアではお金がもらえないことを知った。　　← **有償ボランティアもあります！**

●エコー学級にいた芳我先生が一中のため、また世界のためにJICAを通して、障害者支援をしているということは昨年知らされていたが、具体的な活動の様子がわからなかったので、今日の映像を通して知ることができました。

○ボランティアは身近なものだということを知った。僕らもボランティア活動をやっていることに驚いた。

●ボランティアというのは、誰かのためにならなければ意味がないし遠くの外国に行ったり被災地に行ったりしなきゃいけなさそうだから、遠い存在だなーと思っていた。しかし、校長先生が「ハートカードや防災訓練もボランティアの一つ」とおっしゃっていて身近なものに感じたし、「私もボランティアできてるな」と思った。将来、芳我先生のように外国に行って直接ボランティア活動をするかはまだ分からないが、遠くから直接ではなくても、できることをしていくことが大切だと思った。

○ボランティアは地域だけでなく世界で活動している日本の人たちがいることはわかっていました。今まで人ごとのように思っていましたが、今回、元一中のエコーの先生が海外で活動していると知り、少し身近に感じることができました。

●今回はボランティアについてのお話でした。僕はボランティアと言ったら地域や身近なことだけだと思っていましたが、実際は世界に向けてやっている活動がたくさんあることを知ってそれについて少し見直すいい機会になったと思いました。これからは街中やCMなどで流れてくる募金活動について少し意識していけたらいいなと思いました。

○ボランティアでいろいろな人を助けている人はすごいなと改めて思いました。

●芳我先生がJICAで活躍している姿を見て、かっこいいと思いました。私も芳我先生のように世界で活躍してみたいと感じました。

＊芳我先生にメールで、「朝礼で先生の話をしてJICAの動画を観たこと」と「皆さんの感想の一部」を知らせたところ、返事をもらいましたので紹介します。

「朝礼の感想、嬉しいです。私自身も、自分が行くまでは、国際協力は自分にとって関わりの薄い、遠いことのように感じていました。出来ることなんてないんじゃないかとも。だけど実際に現場を目にすると、なにかしら力になれることが必ずあることに気付きます。特別支援の分野は特に、手付かずの部分が多いので。

協力隊の動画で私が字を教えている生徒は、17歳で初めて教育を受け、言葉をなにも知らず、快・不快を表情やジェスチャーで表現するだけでした。今はその生徒も自分の名前を(見本を見ながらですが)書けるようになっています。本当に些細なことだけれど、それすら誰にも教えられず、(周りも教える必要性を感じていないまま)生きているんですよね。

だから、途上国には、行けばきっと誰かの力にはなれるだろうなぁと感じています。少しでも国際協力に興味がある人は、ぜひ一歩踏み出してほしいと思いますし、帰国したら、そういう人の背中を押したり、興味を広げる活動にも取り組みたいと思いました。」　**（芳我先生の動画は「JICA現職教員特別制度」で検索）**

＊武蔵野市の地域のことから世界まで、幅広く考え、実行できる人を目指しましょう。